

さくら小学校校舎増築工事にかかる説明会 要点筆記

日時:令和7年7月16日(水)19時～20時30分

場所:さくら小学校 メディアホール

【グラウンドの目的外使用について】 資料 P11

Q1:工事期間中の使用はどのようになるか。

⇒子ども達の使用と同じく、令和8年3月～5月末の全面使用不可期間を除けば、仮囲い外部分の南側の半面は通常どおり利用可能。なお、グラウンドの出入りについては、乗入部仮囲いと工事エリア仮囲いの間からアクセス可能。

Q2:サッカーや野球の練習中にボールが仮囲いに当たったとしても問題ないか。

⇒注意して利用していただきたいが、問題なし。ボールが仮囲い内に入った際の返却方法は、別途学校側と取決めを行う。

【通学時等の安全確保について】 資料 P12～P16

Q3:説明会資料には「工事車両の搬入は8時までの入場、または8時半以降の入場」とあるが、通学時間帯は7時45分～8時半なので、当該時間帯は工事車両の出入りがないよう徹底してほしい。

⇒通学時間帯(7時45分～8時半)や休み時間は、車両の出入りを行わない。また、車両通行ルート図のなかで、青色ルートでは通行できない大型車両については、車両の前後に誘導員を2名配置し、最徐行にて通行する。

【植栽について】 資料P8

Q4:花壇撤去箇所の植栽はどうなるのか。

⇒一旦撤去し、工事エリア外の空きスペースに移植したうえで、工事完了後できる限り復旧する。

Q5:田んぼや菜園の水栓が仮囲いのなかにあるため、仮囲いの位置を工夫してほしい。

⇒位置的に工事エリア外とできるか検討し、難しい場合は、仮設水栓を設ける。

【騒音や振動について】資料P14

Q6:授業に支障をきたすことはないか。

⇒法令基準を遵守するのは当然であるが、加えて低騒音・低振動型の重機を使用することで、授業への影響を抑えるよう最大限配慮する。なお、増築棟を軽量鉄骨造で計画したことで、鉄筋コンクリート造よりも施工期間が短く、工程も比較的シンプルで済み、設計段階から授業への影響を低減する工夫を行っている。

Q7:子ども達が学校を使用しない夏休み期間(7月～)から工事を開始することはできないのか。

⇒可及的速やかに着工したいと考えているが、7月は、施工体制を整えるための準備期間とする必要があり、工事開始は8月からとなる見込み。

【児童数予測について】資料P2

Q8:新築時から適正に児童数の推移を見込んでいれば、このような増築工事を行うことにはならなかったのではないか。

⇒これまでは出生数を単純に横スライドして入学者数を推計しており、統合時点の出生数では、児童数の推移は減少傾向にあった。加えて、日本全体でも人口減少傾向が続いている。そうした状況のなかで増加を見込んで設計を行うことは不可能であったと考える。

一方で、樟風中学校以降の新設校では、入学児童生徒数が増加しており、さくら小学校においては、特に出生数と実数の乖離が大きくなっている。そのため、今回の増築棟の室数設定にあたっては、従来の単純な人口スライドではなく、さくら小学校の校区内における開校からこれまでの出生数と、入学者数の乖離数から、増加率を算出して掛けることで、教育委員会として、一定の根拠をもって算出できる最大室数を設定した。

Q9:増築棟の普通教室数は12教室であるが、今後それ以上必要になった場合はどうするのか。

⇒これ以上現在の敷地で増築を行うことは困難であるため、教室の転用等を行ったうえで、それでも不足が生じる場合は、校区変更による対応も検討する必要があると考える。

【グラウンドの遊具について】 資料P12

Q10:工事エリアにあるグラウンドの遊具はどうなるのか。

⇒下記のとおり新設や撤去、また移設となるものがある。また、移設先はグラウンドの南側を予定している。

○新設:砂場

○撤去:高鉄棒、登り棒、砂場

○移設:うんてい

○一部撤去・移設:低鉄棒(15本中6本を撤去し、残り9本を移設)